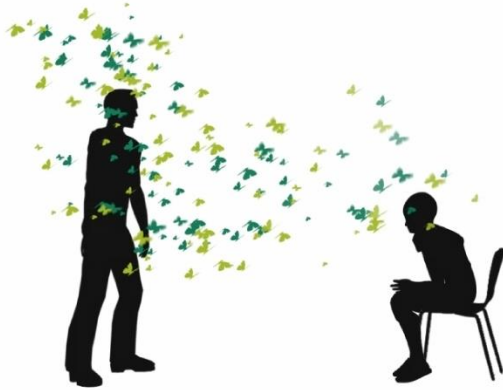


子どもたちが語る暴力と搾取のない世界

free ^B from violence and exploitation



チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、社会から取り残された弱い立場にある子どもたちの生活を改善し、子どもたちが貧困を乗り越え、権利を実現することができるよう、世界 58 カ国で活動し、12 の団体からなる国際的なネットワーク組織です。

<http://www.childfundalliance.org>

著者: Felipe Cala, Andrew Johnson and Sarah Stevenson

目次

要約.....	4
はじめに	5
この報告書について.....	6
フォーカス・グループ・ディスカッションを通して聞かれた主なテーマ	8
子どもたちからの提言	11
子どもたちの声から見えてきたもの：調査データ集計結果.....	12

要約

国連総会が 2015 年より先の地球の優先課題を協議する準備を進める中、世界の子どもたちから、子どもへの暴力と搾取に対する取り組みこそ優先課題に盛り込まれるべきだという声があがりました。

チャイルド・ファンド・アライアンスは、ポスト 2015 年開発目標（ポスト MDGs）の検討過程で子どもたちの声に耳を傾けるために、世界 41 カ国、1,300 人を超える子どもが参加する、フォーカス・グループ・ディスカッションを実施しました。本紙は、この調査を通じて聞くことができた子どもたちの声をまとめたものです。子どもたちは、「子どもに対する暴力」の事例として、以下のような実態があることを伝えてくれました。

- ・ 熱くした金属の棒やスプーンを使って罰せられる。
- ・ 臓器売買を目的に誘拐される。
- ・ 熱い油に手を突っ込まれる。
- ・ 麻薬の運び屋として無理やり妊娠させられる。
- ・ 家同士の争いを解決するため、あるいは借金の肩代わりのために、強制的に結婚させられる。
- ・ 学校で激しく叩かれ、死んでしまうこともある。



フォーカス・グループ・ディスカッションに参加する子どもたち。（ラオス） 提供：チャイルド・ファンド・ラオス

一方で、子どもたちは自身を守るために必要な方策についても、具体的な提言を示してくれました。

最も多く聞かれた提言は、以下の 3 つです。

- ・ 体罰を含む暴力を禁止する法律を定め、施行する。
- ・ 体罰を含む暴力を禁止するための啓発活動を、あらゆる年代の人に対して行う。
- ・ 子どもたちが安全と感ずることができるよう、加害者への罰則を強化する。

また、「自由を感じるのはどのような時ですか」という問いに対して、話を聴いてもらっていると感ずる時、安全と思える学校に通える時、遊んでいる時、という回答が子どもたちから寄せられました。

41 カ国の子どもたちから最も多く聞かれた暴力の形態は、性的暴力、児童労働、体罰や子どもの品位を傷つける行為の 3 つでした。アフリカ地域の子どもたちからは有害な伝統的慣習、北米・中南米地域の子どもたちからはいじめの問題が指摘されました。

その他、子どもたちが直面するリスクとして、麻薬・アルコール中毒、退学、妊娠、無理やり犯罪行為に加担させられることも挙げられました。

はじめに

世界の子どもたちの多くが暴力と搾取にさらされています。最悪の形態の児童労働に従事させられる子ども、早期婚や女性性器切除等の有害な伝統的慣習に従わされる子ども、性的暴力を受ける子ども、武装集団や軍によって子ども兵とされてしまう子ども、司法に守られていない子ども、不当に刑務所や施設に収容される子どもたちがいます。

子どもの生存と健やかな成長の権利を守るために、暴力と搾取の防止に取り組むことは不可欠です。

暴力と搾取による影響は今日では広く知られています。児童労働に従事する子どもの割合が高い国では、就学率は低くなります。暴力的な環境下で勉強した子どもはそうでない子どもに比べて学習到達度が低い傾向があります。虐待の影響は感情、精神、肉体におよび、学習する力や他者と交流する力に深刻な問題をもたらします。

ポスト 2015 年開発目標がミレニアム開発目標 (MDGs) の役目を引き継ぎ、やり残した仕事を終わらせることを目指すのであれば、子どもに対する暴力と搾取への取り組みは、目標として明示されなければなりません。

ポスト 2015 年開発目標の検討プロセスに子どもたちの声をより強く反映させるために、本紙では 1,300 人を超える子どもたちが参加し、55 のフォーカス・グループから得られた質的データの分析結果をまとめ、さらに、国連が実施するオンライン調査「マイ・ワールド」に投票した 6,500 人の子どもたちの投票結果の分析を試みました。



フォーカス・グループ・ディスカッションに参加する子どもたち。(エクアドル) 提供: チャイルド・ファンド・エクアドル

フォーカス・グループ・ディスカッションでは、子どもたちが暴力と搾取から自らを守ることに思っていること、感じていることとして、以下の事柄が明らかになりました。

- ・子どもたちは、差別されない権利、自分の生活に影響する意思決定プロセスに参加する権利など、自分たちが持つべき権利が保障され、基本的な自由を享受したいと望んでいる。

- ・子どもたちが受ける様々な形態の暴力や搾取として、最も多くの子どもが挙げたものは、性的暴力、児童労働、体罰や子どもの品位を傷つける行為である。

- ・男女ともに暴力と搾取の被害を受けていると多くの子どもたちが強調している一方で、女子が性的暴力や搾取を受けるリスクが高く、男子は身体的な被害を受けるリスクが高いということも認識されている。

この報告書について

「子どもの参加」は、権利の一つとして保障されているだけではなく、子どもの権利条約で定められた権利を遂行するために必要な、原則であり手段でもあります。つまり、子どもたちが権利を持つ市民として尊重されず、子どもたちの意見に耳が傾けられず、軽視されている状況では、子どもの権利条約が実現されることはありません。

さらに、「子どもの参加」は、国連事務総長「子どもに対する暴力」調査・研究報告¹の中でも重要なポイントとして取り上げられています。この調査・研究報告で挙げられた12の横断的な提言のうち、7番目に「子どもの参加」が取り上げられており、子どもに対する暴力への防止の取り組みを進めるためには、あらゆる面で積極的に子どもたちの意見を取り入れ、尊重することが、各国政府に対して呼びかけられています。

本書の目的は、ポスト2015年開発目標の検討プロセスに子どもたちの声をより強く反映させることにあります。具体的には、以下2点を目的としています。

- ①子どもの声はポスト2015年開発目標に必ず盛り込まれること。
- ②子どもに対する暴力と搾取についての子どもたちの声をまとめた質的調査の分析結果が、ポスト2015年開発目標に取り込まれること。

子どもを中心に据えた対策を実施するためには、子どもに対する暴力や搾取を、子どもの視点から理解することが必要です。そのために、41カ国で各グループ20人～30人からなるフォーカス・グループ・ディスカッションが実施されました。

¹ Paulo Sérgio Pinheiro (2006), World report on violence against children (United Nations). <http://www.unviolencestudy.org/>.

これらのディスカッションの実施・調整は著者によりますが、本紙の内容は、子どもの意見と参加によるものです。

方法

この報告書は、アジア、アフリカ、そして北米・中南米にまたがる41カ国で実施したフォーカス・グループ・ディスカッションを通して得られた、子どもたちの声をまとめたものです。

対象国の選定は、チャイルド・ファンドの事業国の中から行ないました。各グループで必ず男女両方の参加を得ることとし、得られた情報は暗号化しました。

ディスカッション実施に当たっては、安全で差別のない環境を確保し、ファシリテーターをサポートするために、以下の文書が提供されました。

- ・コンセプト・ノート（調査実施草案）
- ・ファシリテーターのガイドブック
- ・フォーカス・グループの進行表
- ・自由回答式の質問リスト（補助質問を含む）
- ・子どもと保護者から取り付ける同意書一式
- ・報告書作成ガイドライン

これらの文書の多くは既存の出版物から採用しました。さらに、ファシリテーターには必要に応じてフィードバックやガイダンスを提供しました。

ディスカッションでは、「子どもの保護」の分野、特に子どもに対する暴力と搾取について話し合いました。またそれぞれの経験を分かち合い、子どもに対するあらゆる形態の暴力と搾取を根絶するための対応策を検討し、提案する場となりました。

ファシリテーターは、子どもたちに以下の質問を投げかけ、必要に応じて、補助的な質問を行うかたちで、調査を進めました。

1. どんな時に自由だと感じますか？
2. どんな時に暴力と搾取から自由になると感じますか？
3. 暴力と搾取を止めるために、どのような環境・状況で、自分から行動することができると感じますか？
4. 暴力と搾取から子どもたちが自由になるためには、世界のリーダーたちは何をしたらよいのでしょうか？
5. 暴力と搾取から子どもたちが自由になるためには、大人には何ができるでしょうか？
6. 子どもたちが直面するリスクにはどのようなことありますか？男女の違いはありま

すか？それぞれのリスクにはどのようなものがありますか？

7. 暴力と搾取、虐待から子どもを保護することについて、他に何か伝えたいことはありますか？

ディスカッションでは「国連・子どもの権利委員会の一般的意見 12」で取り上げられている子どもの参加基準を適用し、子どもたちが意見を表明し、自分たちで提言を考えだすことができる進め方としました。

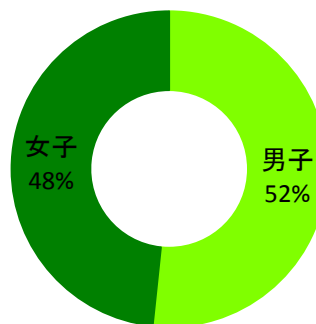
グラフでは、フォーカス・グループの何パーセントが特定の課題について言及したかを示しています。報告書本体の Annex 2 では回答を照合する際に使用したコードを掲載しています。報告書本体は、以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.freefromviolence.org>

フォーカス・グループに参加した子どもたちの非集計情報

	男子	女子	合計
アフリカ	306	307	613
北米・中南米	184	176	360
アジア	207	169	376
全世界	697	652	1349

参加者の性別の割合



フォーカス・グループ・ディスカッションを通して聞かれた主なテーマ

1. 子どもの権利と子どもの権利条約

子どもたちは、全てのディスカッションにおいて、自分たちの権利が保障され、基本的な自由が尊重されることへの期待を表現しました。中でも、参加、教育、健康、食事、遊ぶことの権利が保障されていることが、強く希望されました。また、子どもたちは、子どもの権利についてより深く認識される必要があり、全ての大人たちがその実現を推し進める必要があると指摘しました。

**“両親やリーダーたち、国家が、
私の権利を尊重してくれる時、
自由だと感じます。”**
17歳、女の子、ギニア

1.1. 参加

フォーカス・グループの議論の中で、子どもの参加する権利が、一貫して最も強く期待されていることが認識されました。子どもたちは、理想的な参加と形だけの参加の違いや、自分たちの意見が意思決定プロセスに盛り込まれることの意義を理解していました。

子どもたちの多くが、大人や政策決定者に自分の意見を積極的に聞いて欲しいと発言しました。多くの場合、子どもたちが意見や考えを表明しやすい環境が整っていることと、暴力の減少は相関関係にあることがわかっています。

また、大人たちからの受益者ではなく、むしろパートナーになりたいという希望を伝える子どももいました。子どもが安心して行動するためには、世代間の対等な対話が絶対に必要な条件なのです。

**“私が夢に手を伸ばしても、
大人たちが黙りなさいと言わない。
その時、自由を感じます。”**
15歳、女の子、ボリビア

1.2. 差別

子どもたちは、全ての差別から自由になりたいと話しました。学校で平等な扱いを受け、平等な機会を与えられ、差別のない生活への期待が寄せられました。また、ジェンダーによる差別をなくすことは、子どもへの暴力を防止するだけでなく、暴力と搾取を削減する解決策としても必要だと、多くの子どもたちが述べました。障がいを持つ子どもへの差別について触れる子どももいました。

**“大人は、全ての子どもを
平等に扱うべきだ。”**
15歳、男の子、リベリア

1.3. 生存

ほぼ全てのグループにおいて、ベーシック・ニーズが満たされることが、健康に生きる権利が保障されることであり、暴力から解放され、自由と感ずるためには、それらの権利が保障される必要があるという考えが挙げられました。多くの子どもがベーシック・ニーズとは十分な食べ物と保健サービスを意味し、これらが不足すると不安を感じやすくなる、と答えました。具体的には家の中でベーシック・ニーズが満たされない時に、暴力や搾取のリスクが高まると指摘しました。また、物乞いについてや、借金返済のための早期婚についての話が出たグループもありました。

2. 教育と学校

子どもたちから、教育へのアクセスが妨げられる要因として、3つが挙げられました。第一の要因として、児童労働（農作業や、家庭での労働、その他）が、男女ともに教育へのアクセスを阻害する要因として挙げられました。2番目に挙げたのが安全で、多くの場合、子どもたちは学校と家の行き帰りにおいて安全と感じられないことが明らかになりました。3番目には、教師による体罰や子どもの品位を傷つける行為が、学校に通う障害となる要因として挙げられました。そのような子どもたちは、学校で、安全（幸福や自由はもちろん）だと感じていません。

また、子どもたちは、学校は教師や他の生徒から暴力を受ける場であると指摘し、学校が安全で暴力のない場所となるよう、教師や政府はより一層努力する必要があると呼びかけました。

子どもたちは、加害者に対して適切な処分がとられるためには簡単でスムーズな通報制度が必要と訴えました。学校内でのセクシャル・ハラスメントの撤廃も訴えられ、そのような行為におよぶ教師は辞めさせるべきとの声も多く聞かれました。

**“教師や大人は、
子どもを虐待するのをやめるべきです”
15歳、女の子、リベリア**

3. 法の制定と施行

ほぼ全てのグループにおいて、法律の整備と施行の重要性が様々な形で指摘されました。自分たちが守られるためには、指導者たちが子どもの権利を深く理解し、保障することを望みました。世界のリーダーたちが子どもに対する暴力を禁止する法律を制定し、施行することの重要性を、全ての地域の子どもが指摘しました。

**“政府は法律を制定するだけでなく、
ちゃんと守られるように努力しなきゃ”
15歳、男の子、エチオピア**

4. 加害者への罰則

子どもに暴力をふるった加害者への罰則は重要であるという認識は、アジアよりもアフリカと北米・中南米でわずかに強いという結果でした。子どもたちが加害者への罰則が重要だと考えているのは、子どもに暴力をふるったことのある加害者が、子どもたちの周りで生活していると、いつでも再犯の危険があるからです。子どもへの暴力は隔離された場所だけで起きるのではないことは、すでに広く知られています。多くの子どもたちは様々な場所で虐待を受ける危険があると考えられます。

**“今の制度で守られているのは大人だけ。
子どもは偉い人に訴えることができません。
暴力をあばく勇気がある人もいません。”
14歳、男の子、ブルキナファソ**

5. 地域の啓発

子どもたちは、両親、教師、地域や国のリーダー、保護者など、大人への啓発の重要性を訴え、これはメディア・キャンペーンを通して実現可能だと感じています。さらに、どこでどのようにキャンペーンを実施したらよいかを訊ねると、地域のマーケットや伝統的な行事の場、また、ラジオを通して行う案が提示されました。

子どもたちは、啓発によって意識を変えることが、子どもに対する暴力への、有効な解決策であると考えています。大人たちが実行する方法でも、子どもたちが自ら取り組む方法でも、意識を変えることは重要だと、多くの子どもたちが考えています。

“私の夢は両親や先生やリーダーたちが、
子どもへの暴力をなくすために

行動することです。”

13歳、女の子、東ティモール

6. 過酷で多様な、子どもへの暴力 と搾取

子どもたちからは、あらゆる形態の暴力と搾取の経験が聞かれました。中でも苛酷な暴力の事例として、熱くした金属棒やスプーンを使って罰せられる、臓器売買を目的に誘拐される、熱い油に手を突っ込まれる、麻薬の運び屋として無理やり妊娠させられる、家同士の争いを解決するため、あるいは借金の肩代わりのために、強制的に結婚させられる、学校で激しく叩かれ、死んでしまうこともある、などの話が述べられました。

多くのグループで、暴力と搾取については、男女の別にかかわらず、同じような危険があるという意見が聞かれました。例えば、児童労働の場合、女の子は家事として、男の子は農作業として経験していることが明らかになりました。性的暴力についても男の子も女の子も同じように被害を受けていることが分かりました。

性的暴力の中で、特に女の子は、児童買春、児童ポルノ等の性的搾取のリスクが高いことも子どもたちの声から浮かび上がってきました。子どもが経験する暴力として、最も多く聞かれた3つは、性的暴力、児童労働、体罰や子どもの品位を傷つける行為で

した。

子どもたちの口から聞かれた様々な形態の暴力と搾取を整理して分類すると、性的暴力、児童労働、体罰や子どもの品位を傷つける行為、人身売買、有害な伝統的慣習、武装集団や軍によって子ども兵とされてしまうこと、そしていじめとなりました。

議論で上がった暴力の中で、最も主要なものの一つは、家庭内、学校や職場での体罰を含む身体的な危害です。

また、紛争や犯罪に関係する暴力は、子どもが常に直面するリスクの一つであるとの声が聞かれました。



ネパールのフォーカス・グループ・ディスカッション
風景 提供：チャイルド・ファンド・ネパール

子どもたちからの提言

グループ討議のデータを分析した結果、子どもたちが世界のリーダーに求める解決策として最も多かった提言は、子どもに対する暴力を禁止する法律の制定と施行、子どもに対する暴力や搾取についての意識の啓発、暴力をふるう犯罪者への罰則、教育へのアクセスの保証、の4つでした。

フォーカス・グループの議論の中で子どもたちは、大人や世界のリーダーたちがどのような解決策を取るべきなのか、意見を出し続けました。以下の項目を含む、様々な行動が提案されました。

サービス強化

- ・暴力の削減に取り組む方法を見出すために、両親や教師と協力して、啓発研修を実施する。
- ・暴力と搾取の危険性を、地域ごとにリストにする。
- ・子どもが安全に過ごせる場所を用意する。
- ・学校に通っていない子どもたちを優先したプロテクション（保護）のプログラムを実施する。
- ・地域の支援組織を増やす。
- ・子どもの安全を保障する活動を取りまとめる中心として、子どもクラブを活用する。
- ・子どもの通学の安全を強化するためのプログラムを実施する。
- ・子どもへのサービスを行う主体を分散させる。
- ・水飲み場には必ず灯りをともし、安全な場所に設置する。
- ・教師を対象とした行動規範を導入する。
- ・子ども用のヘルプ・ラインを設置する。
- ・護身術を身につける教室を開く。

- ・子どもが受ける暴力についての調査を、地域ごとに行う。



ガーナでのフォーカス・グループ・ディスカッション
提供:チャイルド・ファンド・ガーナ。

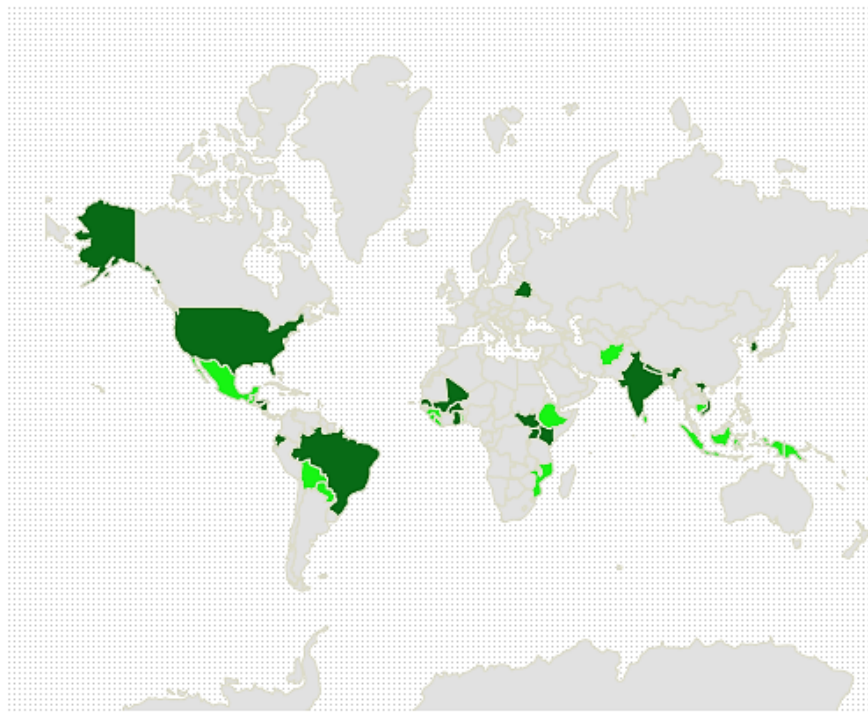
法令強化

- ・暴力を犯す加害者へのカウンセリングを実施する。
- ・警察に匿名で通報できるようにする。
- ・暴力を犯す加害者を告発するための予算を増やす。
- ・危険な労働に従事する年齢を、全ての国内法において18歳以上に引き上げる。
- ・地元の警察チームを組織化する。

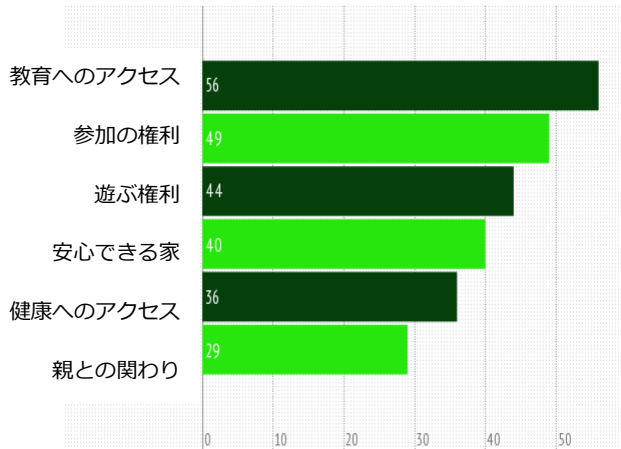
教育

- ・子どもの権利条約やその他の国際条約の中で、教育を受ける権利を、より強調する。
- ・暴力に反対する世界規模のキャンペーンを行う。

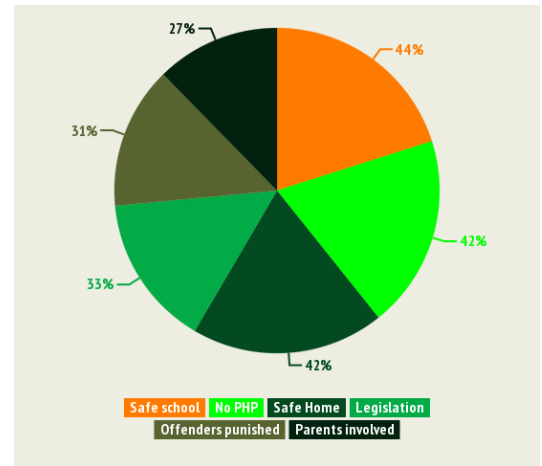
子どもたちの声から見てきたもの：調査データ集計結果



子どもたちが自由を感じることができるために必要なもの



子どもたちが暴力と搾取から自由になるために必要なもの

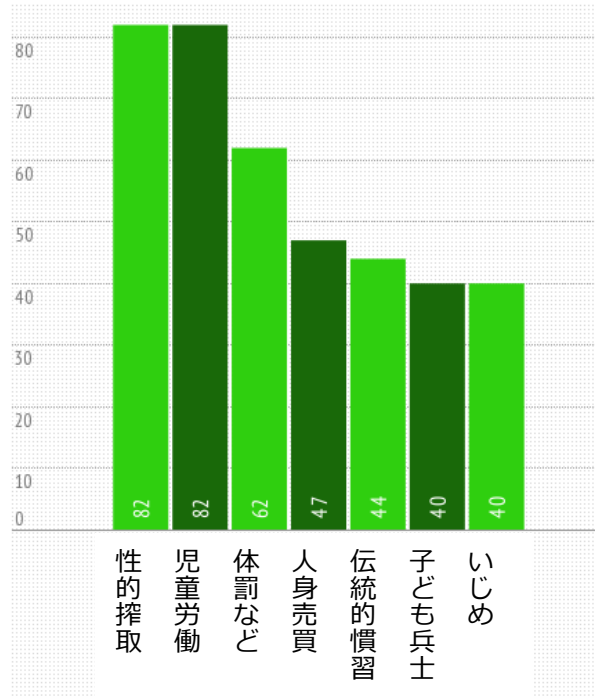


子どもに対する暴力と搾取をなくすために世界のリーダーがすべきこと

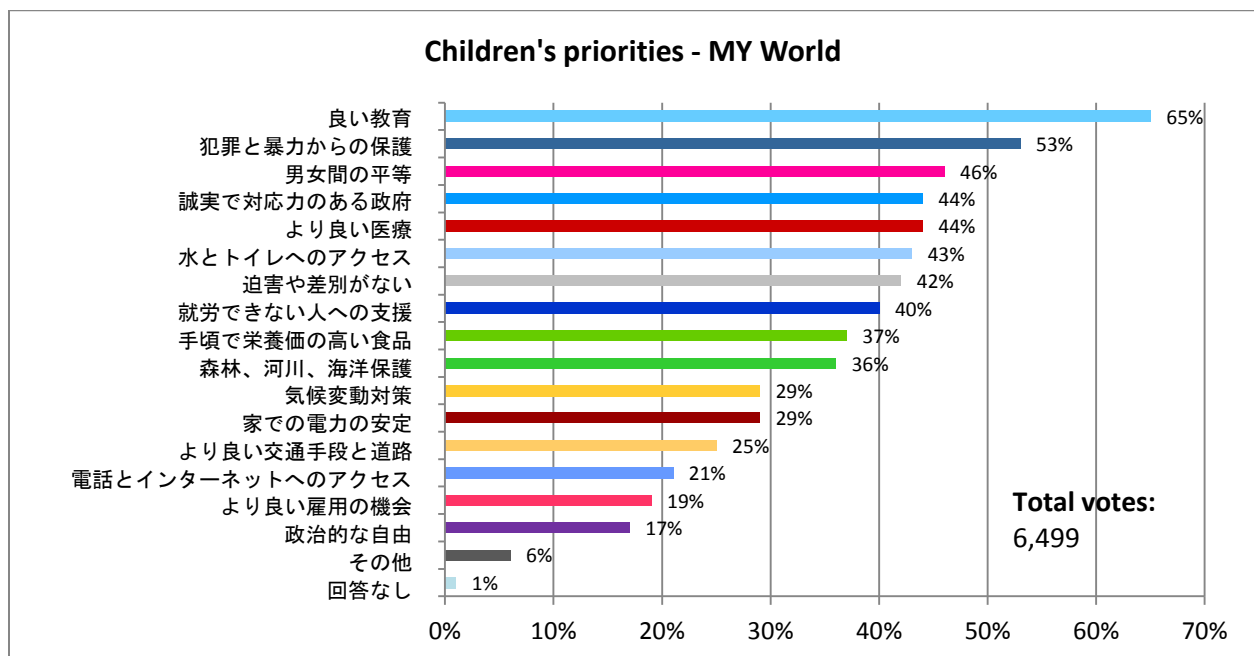


法律の制定と施行 加害者の罰則 メディアを通じた啓発 地域のサポート体制強化
 防犯体制強化 地域ごとに特化した対策 啓発 子どもの権利推進 貧困対策

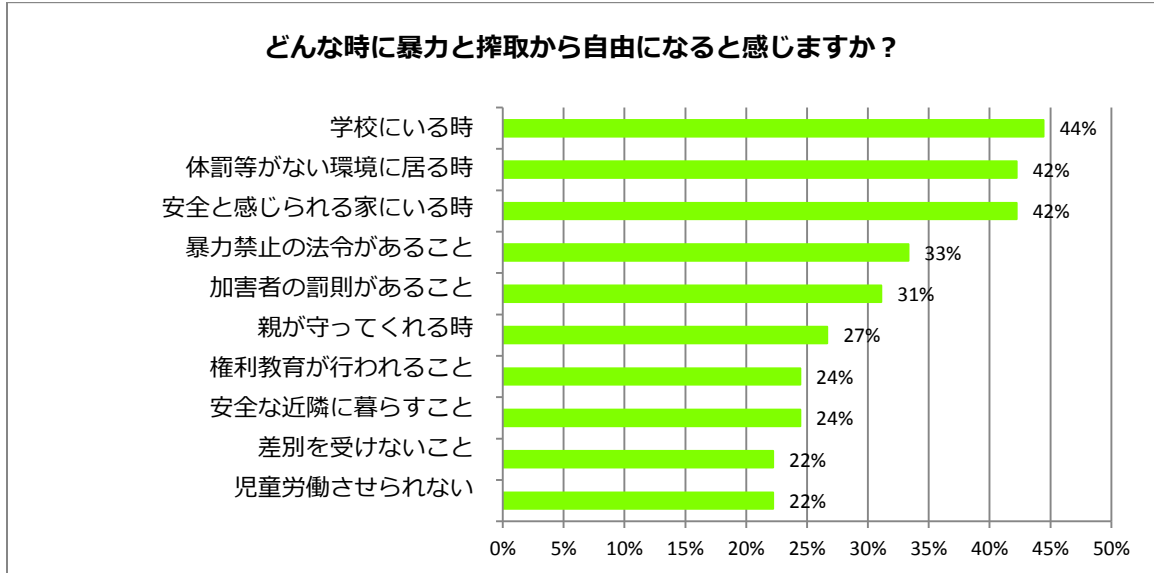
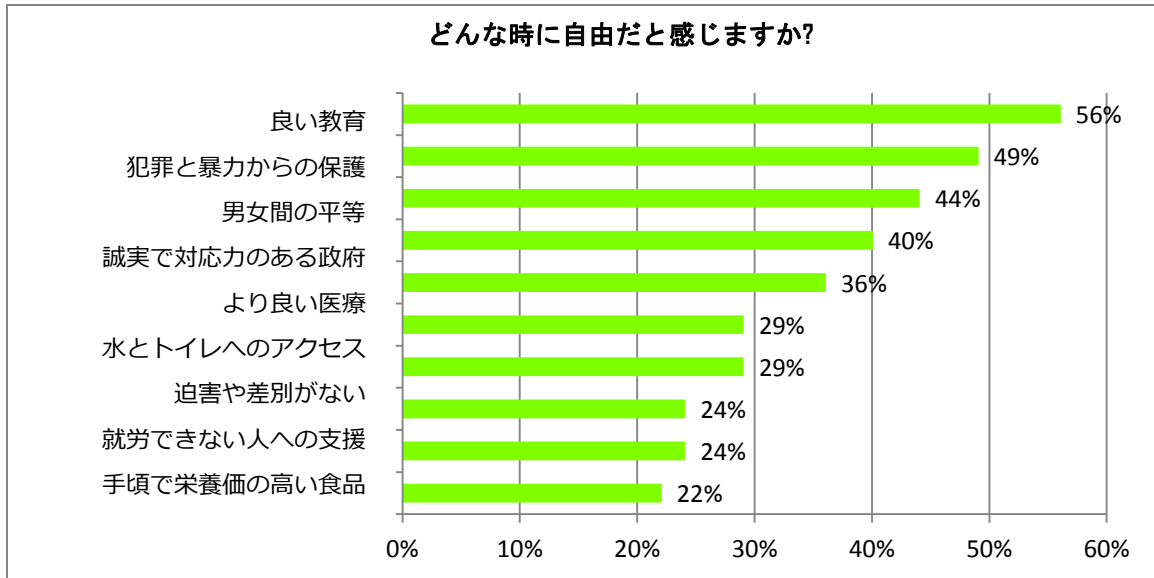
子どもたちが直面している暴力と搾取



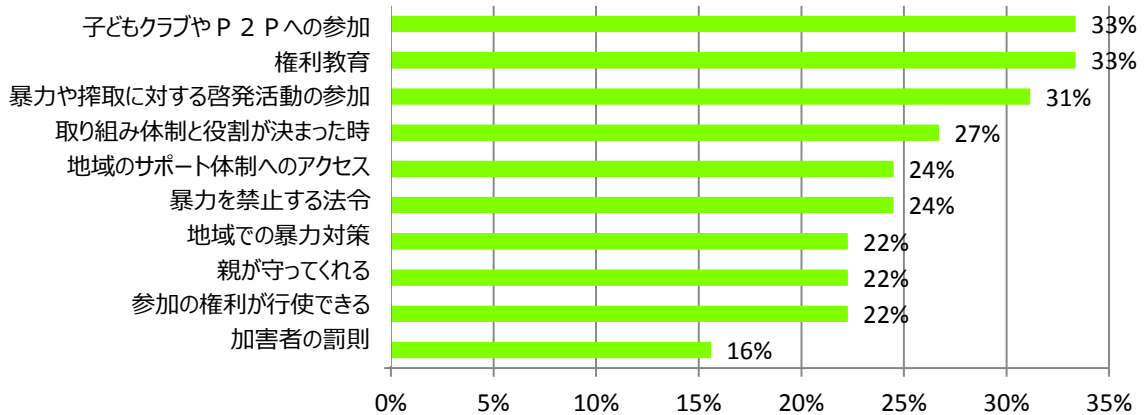
6,500 人の子どもが選んだマイ・ワールド（私たちが望む世界）



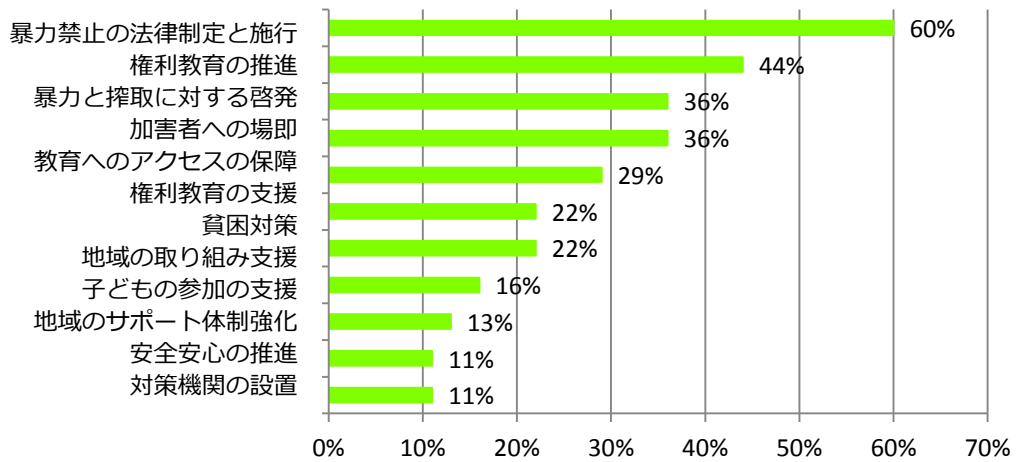
41 カ国 55 の子どもグループのフォーカス・グループ・ディスカッション集計結果



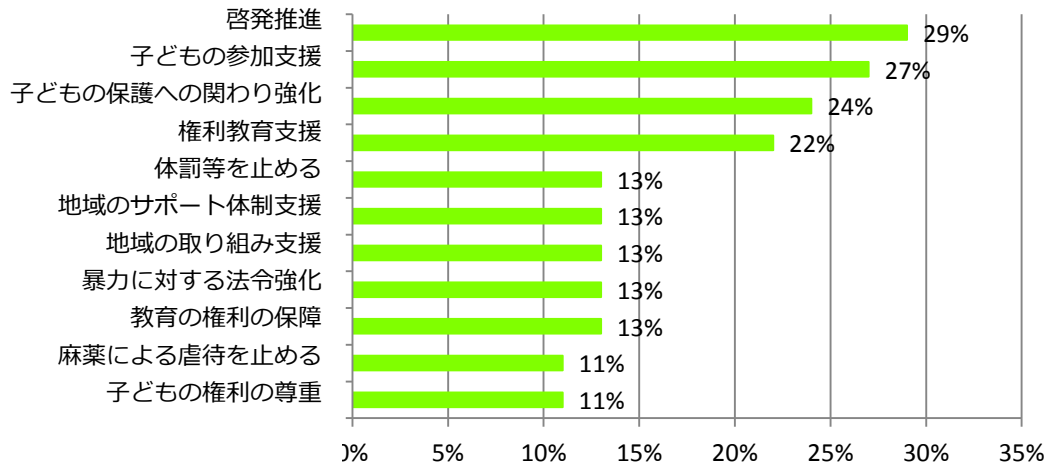
どのような環境・状態にあるとき、自発的に暴力と搾取を止める行動をおこすことができると感じますか？



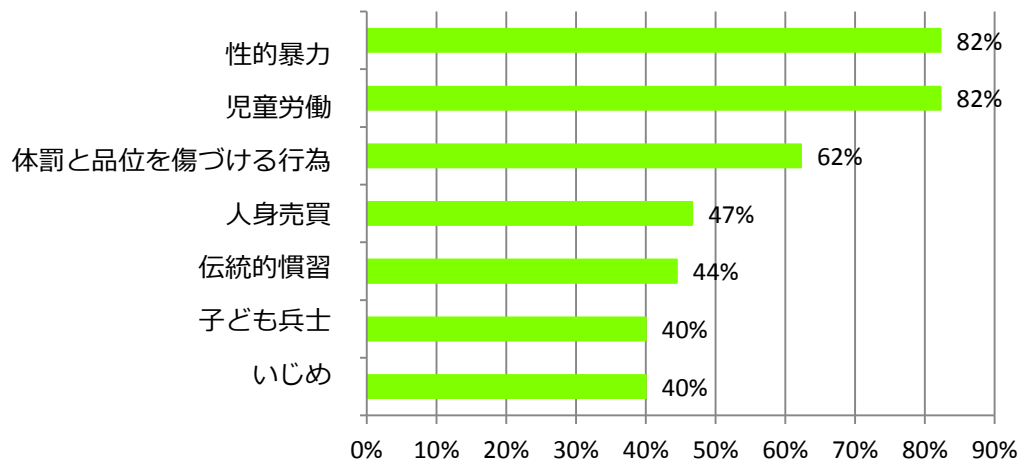
暴力と搾取から子どもを自由にするために世界のリーダーがすべきこと



暴力と搾取から子どもを自由にするために大人にできること



男女共に子どもたちが最も多く経験している暴力の形態



ChildFund[®]
Alliance

www.childfundalliance.org